



YAH YAH YAH in
リレハンメル

豊田 彩華
ノルウェー在住



今から私は YAH YAH YAH

この原稿を書き終えたら、大切な友人のところへ、一世一代の大喧嘩をしに行く。
地球の反対側で、青い目をした友だちと、母語でもない言語でぶつかり合おうとしているなんて、半年前の私には想像もできなかったことだ。

私のノルウェー・リレハンメル物語

2023年の初夏、私は突然、**1**年間海外留学することを思い立った。理由はシンプルで、自分の人生に新しい風を吹き込みたいと思ったから。

北海道から高知まで飛び出してきて、それだけで新しい風は十分に吹いていたはずなのに、もっともっと風通しを良くしたくて、私はノルウェーに向かうことを決めた。そして今、私はリレハンメルに住んでいる。
どうやら私はとても欲張りで、一生冒険がしたいみたいだ。

ノルウェーでの最初の半年間は、本当に過酷だった。ノルウェー語はもちろん、英語も早すぎてほとんど聞き取れないから、買い物の仕方から授業の受け方まで、何一つわからない。つたない英語で必死に質問して、それでもやっぱりよくわからなくて、愛想笑いで誤魔化す毎日が続く。

おまけに、ここ北欧では冬の間、太陽が全然顔を出してくれない。真っ暗な冬の中、自分と全く違う容姿の人たちに囲まれて、私が口をばくばくさせている間に、時間がどんどん進んでいく。この世界には私ができることは何もなく、そのことがどうしようもなくつらかった。まるで、赤ん坊になって宇宙に放り出されたような感覚。泣きながら授業に向かい、授業の休憩時間もトイレにこもって泣いて、寮に帰ったらベッドの中で泣きながら眠りに落ちる、そんな生活を続けていた。

それでも、しばらく時間が経つと、生活は変わっていく。

ここには書かないけれど、言葉や文化の壁を越えて、心と心が触れ合う瞬間がいくつかあった。つらい記憶、大切な人との別れ、いま抱えている痛み。同じベッドの上で映画を見ながら、私たちはいくつもの夜を語り明かしてきた。



リレハンメル郊外のログハウス

そうすることができたのはまぎれもなく、大切な友人たちのおかげ。私に話しかけ続け、流暢に話せない私の言葉を辛抱強く待ち続けて、孤立した私を気にかけて、手を引いて外に連れ出してくれた。そして時に、心を開いて私と本気でぶつかり合ってくれた。
そうして今から私は、青い目をした大切な友人と向き合いに行く。

これまで出会ってきた友人たちの気持ちが、波紋のように広がって、いま私の形を変えつつある。変わるだろうか。暗い部屋で泣き続けていた私から、新しい友人の手を引いて外へ飛び出していく私へ。

大喧嘩のあとは、長いさようならを伝えなければならなくて、そのことが少し悲しい。それと同時に、遠い国に、かけがえのない仲間が明日も生きているという事実が、とてもうれしい。理解できないものたちに出会い、また自分も全く理解されず、もがき続けながら、自分にとって心地よいものや、新たに理解したいと思えるものに出会っていくということ。
そして、理解できないものが自分の周りに在り続ける世界を受け入れ、時に立ち向かって行くということ。

とても抽象的だけれど、この半年間は、「私がいま世界のどこにいて、何と向き合っていて、この先何と向き合っていきたいのか」を考える時間だった。
なんだかもうすぐ帰国するみたいに聞こえるけれど、どうやらまだ半年残っているみたいだ。胸がときどきする。窓の外で、また、新しい風の音が聞こえる。



ノルウェーの冬は長く寒い



1994年2月 リレハンメル冬季オリンピック
キングオブスキー(ノルディック複合)で日本人阿部雅司、荻原健司、河野孝 **3** 選手が団体金メダルを獲得、日本中が換気に沸いた。

KOCHI IYEO HP



2024年7月20日発行
発行者
高知県青年国際交流機構
(KOCHI IYEO)
会長 前田正也

☎ **090-9552-0022**

✉ **xiwang@yacht.ocn.ne.jp**